

「六甲山の治山の歴史を訪ねる」ツアーの開催

神戸県民センター六甲治山事務所

1 はじめに

六甲山は都市近郊にあるため、かつては薪炭材目的等で森林が伐採され、明治時代には多くの山がはげ山であった歴史があります。それに加えて六甲山の多くを構成する基岩が、風化・浸食を受けやすい花崗岩で急斜面ということもあり、過去幾度と無く大規模な土砂災害を発生させてきました。

かつてはげ山だった六甲山は明治時代に始まった地道な植林によってよみがえり、その後の土砂災害を教訓に治山・砂防施設が継続的に整備されてきました。先人たちが施工してきた数多くの施設は、森林の早期の復旧や災害防止に効果を発揮し現在の緑豊かな六甲山の礎になっています。特に再度山近辺は、林業遺産にも認定された明治時代に築かれた植林のための石積みの遺構が残っており、六甲山の治山の原点を学ぶのに適した現場となっています。

このような六甲山において、県民の森林保全の大切さへの理解や土砂災害に対する知識、防災意識の向上を図るため、六甲山の植林と治山の歴史を講義で紹介し、今なお残る石積み等の遺構や周辺の治山施設、大竜寺周辺に残された照葉樹林を再度山近辺で歩いて巡る「六甲山の治山の歴史を訪ねる」ツアーを開催しました。

当ツアーは今年度で7回目の開催になりますが、今回は新型コロナウイルス感染症予防対策から明けて初めての通常開催となりました。新型コロナウイルスによる制限でバスや運転手が減ってしまった影響で、バスの予約が取れず開催日を変更せざるを得ない調整が必要でしたが、なんとか開催に至りました。



出発前に全員集合



明治時代の石積を見学



職員による治山構造物の説明



森林インストラクターによる植物観察会

2 開催概要

(日時) 令和5年11月28日(火)

(場所) 西神戸庁舎集合、受付、出発 12:00~12:40

1台の大型バスに乗車して現地に移動(移動中所長による講義)

再度公園周辺ツアー(現地) 13:30~15:30

終了後バスでJR神戸駅、西神戸庁舎へ移動、解散

(参加人数) 32名

① 橋本六甲治山所長による講義(バス移動中)

六甲山系の成り立ち、再度山の植林の歴史、戦前に実施された摩耶山の治山工事等を紹介しました。

② 現地見学会(再度公園—大龍寺—蛇ヶ谷—再度公園)

4班に分かれて約3kmの周回コースを案内し、明治時代に築かれた遺構等を見ながら、治山施設の設置目的や効果の発揮等の説明に加え、森林インストラクター兵庫の方々による森林植生の観察会を実施しました。

3 まとめ

当日の天気は曇りがちでしたが、危惧されていた降雨も無く紅葉もピークの色彩を見せる中、70代が一番多かった32名の参加者もトラブル無く穏やかにツアーを実施することができました。職員による治山事業の歴史や現地の構造物の説明はもとより、森林インストラクターの方々による木々の葉や実を見て触って学べる観察会がツアーに彩りを加えて、参加者の皆様にも喜んで頂けました。

当日行ったアンケートの結果では、「治山ダムは自然に戻るという解説が印象深かった」というコメントに代表されるように、治山施設や森林の復旧(治山関係で計64%)を「印象に残ったもの」に上げる方が多く、治山事業への関心の高さが伺えました。また「植物の説明が良かった」という声も多く、森林インストラクターの方々が当ツアーに無くてはならない存在ということを再認識しました。

これからも、「六甲山の災害展」と合わせて、当ツアーのように治山事業の歴史や実績、目的等を、現場での体験や講義、パネル等で積極的に知ってもらう機会を作り、県民の土砂災害に関する知識や防災意識の向上に寄与したいと考えています。



ピークの色彩を見せる紅葉